



リポーター

吉田久美子さん(柏原在住)

市民の皆さんにリポーターになっていただき、市の施設や事業などをご紹介します。



乳幼児情報センターには、1日25組程度の親子が訪れ、子育てに関する情報交換の場所にもなっています

暖かな季節となり、公園には赤ちゃんと一緒に散歩をする、お母さんの姿を見かけるようになりました。出産を間近に控えた私にとって、その光景は微笑ましい一方で、これから始まる子育てが初めてのことでどうしたらいいのか、ちよつと不安にもなっています。そこで、子育ての支援を市ではどのように推進しているのか、平成14年10月に設置された子育て支援対策プロジェクトチームでお話を伺いました。

急速な少子高齢化や核家族化が進む中、女性の社会進出や生活様式の多様化、家庭や地域の子育て機能が低下するなど、子どもを取り巻く環境は大きく変化していま

す。市では、これらの変化に総合的に対応し、子育てに関する不安の解消や要望に的確に応えることが求められていることから、このプロジェクトチームが設立されたそうです。家庭で親が安心して子育てができること、子どもを持つ親が安心して働くための支援、親子が安心して過ごせる広場や遊び場の確保、地域で活動している民間の子育て支援団体の活動環境の支援の4つを取り組むべき課題として整理を行い、さまざまな施策を計画的に推進していくと話していました。

まず今年度は、産後ヘルパー派遣事業を実施するそうです。この事業は家事の手伝いや子育てのアドバイスを行うことで、育児の不安を解消することを目的としています。退院後1か月までの方が対象で、費用は1時間700円程度とお手ごろだと思いました。また、中央児童館に子育て支援の機能を持たせるため、施設改修を行い、親子が交流できるスペースを設けます。その他にも民間保育所の設置促進や学童保育室を新設したり、公立すべての保育所で12時間保育を実施するほか、乳幼



乳幼児情報センターのホームページ  
<http://www.city.sayama.saitama.jp/tokotoko.htm>

今回、乳幼児情報センターを訪れた、子育て真っ只中のお母さんやスタッフの方にお話を伺うこともでき、私自身がこれからの子育てに安心を感じることができた、貴重な体験になりました。

児医療費の通院に係る対象年齢を就学前までに拡大するなど、さまざまな施策を計画しているそうです。

中でも私が関心を持ったのは、「平成13年7月から保護者の交流などを行ってきた乳幼児情報センターを、子育てに関する中心的な施設とし、情報の提供や相談事業の充実、関係機関とのネットワークを図っていきたい」というお話です。そして、その第一歩として、センター職員の手作りによるホームページが、今年の2月に開設しました。私も乳幼児情報センターにおじゃまし、ホームページを見せていただいたのですが、育児に関するさまざまな情報や相談案内、児童手当など子どもたちのための制度など、今子育てをしている私たちの世代にもわかりやすく構成されていました。皆さんもぜひ、ご覧になってみてはいかがでしょうか。

広報紙で市民の声を紹介してください  
私は、過去20年余り、地域環境の美化を目的に空き缶やごみを拾って奉仕活動をしています。これまで、こうした経験を生かして、市に対しさまざまな提案をしてきました。市では市長への手紙などあらゆる機会を通じて市政に対する要望や意見を受け付け、回答しているようですが、その意見はどのように生かされているのでしょうか。ぜひ、この広報紙に市民の意見や提案が紹介されるコーナーを作っていただき、こうした声を取り上げてほしいと思います。きっと、市に対する意見があっても声に出して言うことなく、胸にしまっている市民もいるでしょう。さまざまな意見を広報紙で取り上げ、その回答を掲載することで、より多くの方に市の見解などが分かると思います。今よりももっと住みよい狭山市となるように、市民は望んでいます。

入間川在住・70歳代・男性

## 市からの回答

ご意見ありがとうございます。市では、お手紙にあるように、市民の皆さんからさまざまな手段でご提案などを伺っていますが、まちづくりに対する皆さんの考えは時代とともに変化し、複雑になっています。市では、これらの貴重なご意見を、市民の皆さんの「よりよい狭山市になってほしい」という願いととらえ、それに応えるように努めています。



は、これらの貴重なご意見を、市民の皆さんの「よりよい狭山市になってほしい」という願いととらえ、それに応えるように努めています。

さて、今月から広報紙がリニューアルしました。文字を大きくし見やすいレイアウトを心がけ、さらに親しみやすい広報紙となるよう工夫しました。その中で、市では情報を発信するだけでなく、市民の声に耳を傾け、市政運営に反映しながら事務事業を進めていることを、より多くの皆さんにお伝えできるよう、この「オピニオン」コーナーを新設しました。日ごろ感じていること、生活の中で生まれるまちづくりのアイデア、広報紙の感想やご提案などを気軽にお寄せください。紙面でご紹介させていただき、さらに発展させて、今後のまちづくりに生かしていきたいと考えています。

担当・広報課



## AET corner

El-Branden Brazil・入間川中学校勤務

When I first went to China, I took a day trip to a section of the Great Wall, in Badaling. It came as a disappointment to discover the Wall swarming with visitors. The ambience it may have once had was now being somothered by the hordes of camera-clicking crowds. Two years later, I vowed taht I would climb the "Wild Wall", free from tourists.

My friend and I took local buses out of Beijing and headed towards sections of the vast wall, which were crumbling and over-grown. For many hours, under the hot summer's sun, we traipsed upon it alone, in awe and appreciation for this magnificent creation. The silence allowed for the whisper of ghosts to consume our imaginations.

私が初めて中国に行ったとき、八達嶺<sup>はつたつれい</sup>付近に広がる、万里の長城を見学に行きました。たくさんの観光客と訪れたことは、落胆したものとなりました。そのときに感じたことは、写真を撮る大勢の人たちで息の詰まるものでした。2年後、観光客とは別に、あまり人が訪れていない万里の長城に登ることにしました。私の友達と北京から地元のバスに乗り、巨大な長城へ向かいました。そこは土がぼろぼろ崩れ、雑草が生い茂っているところでした。数時間、夏の熱い太陽の下、この壮大な創作品に対するおそれと感謝を感じながら、私たちだけで歩き回りました。静寂は私たちの想像力を刺激し、霊界からのささやきも感じられる雰囲気になってくれました。<エル・ブランドン・ブラジル>(英文の要約)

●田んぼに囲まれた学校ならではの「お米作り」  
私たちの学校は、周りを田んぼに囲まれています。毎年2・5・6年生が6月に田植え、秋に稲刈りを行い、体験を通して、お米について学んでいます。また、お米作りでお世話になった人を招き、収穫したお米でおにぎりパーティーも開きます。



●尾瀬の林間学校  
自然環境の保護の様子を実際に観察し、地域環境保護に役立てるため、6年生が毎年2泊3日で尾瀬に行きます。これは修学旅行にかわる伝統行事です。



奥富小学校

このコーナーでは市立の小・中学校を紹介します